

# ナビクル Buzz MK RACING

## SUPERFORMULA RACE REPORT

MOTEGI 2026 SUPER FORMULA Round.03

全日本スーパーフォーミュラ選手権 2026 第 3 戦 オートポリス

4月25日(土)～26日(日)

2度目の予選 Q2 進出で得た確かな進化。決勝レースは無念の雨天中止に



前戦の開幕戦もてぎ大会では、走行を重ねるごとに自身のレベルを高めるとともに、クルマのポテンシャルを最大限に引き出すドライビングを披露した、スタネック。デビュー戦ながらも予選 Q2 進出を決め、決勝はヘビーウェットという難条件の中でもポイントを獲得。高いパフォーマンスで存在感を示すことができた。続く第2戦では接触がありつつも、惜しくもポイントには届かなかったものの、確実に完走を果たし、次戦へと繋がる貴重なデータを蓄積。チーム全体の士気もさらに高まりを見せる中、ここ、九州オートポリス大会へと挑んだ。

## ■PRACTICE

4月25日（土） 天候：晴れ／路面：ドライ

年に一度の九州大会となる第3戦オートポリスは、もてぎ大会とは異なり1大会1レース制で、土曜日の午前中に公式練習、午後に予選、そして日曜日に決勝が行われるという、とてもタイトなスケジュールで、初めて走るスタネックにとっては厳しい戦いになることが予想された。また、今大会は通常の予選Q2に加え、上位5台がポールポジションをかけて争うQ3が追加され、3段階のノックダウン方式で争われるというもの。予選では常にタイムが拮抗したアタック合戦が繰り広げられるスーパーフォーミュラだが、今大会はより一層の緊張感に包まれていた。

搬入日となった金曜日は終日雨に見舞われ、サーキットは霧に包まれていた。一転して予選日となる25日（土）は朝から青空が広がり、天候は大きく回復。コース上にははところどころにウエットパッチが残るものの、気温15度／路面温度19度のドライコンディションのもと、9時15分にフリー走行がスタートした。開始早々、1台のスピンによる赤旗が掲示されるも、そのあとは順調にセッションが進んでいく。スタネックは初走行となるオートポリスでの経験値を高めるべく、序盤から連続周回を重ね、コースの習熟に集中。限られた走行時間の中で着実にラップを積み重ねていった。

ある程度の周回を重ねたところで、開始から約60分のタイミングでニュータイヤを投入。予選を見据えたアタックへと移行しようとした矢先、1コーナー立ち上がりで痛恨のスピンを喫し、マシンはグラベルにストップ。これにより赤旗の原因となってしまった。幸いにもダメージは最小限にとどまり、ドライバー、マシンともに大事には至らず、その後の走行再開が可能となった。終盤の組分け走行に移ると、B組で出走したスタネックは、2セット目のニュータイヤを履いて出走。ところが、セクター3で2度目のスピンを喫してしまい、予選に向けたニュータイヤでのデータと、自身にとっても十分なアジャストを完了できないまま不安の残るフリー走行を終えることとなった。

順応性の高いスタネックも「プッシュして色々トライしていこうというなかで、2回スピンがありました。今まではそういったミスをあまりしたことがなかったので残念です」と語り、スーパーフォーミュラでの、ここオートポリスの難しさを痛感。ただ、フリー走行ではマシンバランスの良さ、そしてトップ10圏内を狙える手応えも得ており、前向きな姿勢を崩すことはなく、予選へと準備を進めた。



## ■QUALIFY P12 4月25日(土) 天候：晴れ/路面：ドライ

フリー走行を経て約3時間後、気温20度/路面温度32度のコンディションの下、定刻14時15分より予選がスタート。Q1B組に出走したスタネックは最後尾でコースインし、アウトラップを経てタイヤの熱入れを行おうとした矢先、1コーナーの進入でイエローフラッグが振られたため中断。1台がスピンしたため早々に赤旗となり、仕切り直しとなった。残り7分30秒ほどで再開されると、スタネックは再び入念にタイヤのウォームアップを遂行し、1分を切ったタイミングでアタックへと入っていく。全セクターで自己ベストを更新するクリーンなラップをまとめ上げ、1分27秒966をマーク。6番手でQ2進出へと繋げた。

12台によってQ3進出を賭けて争われたQ2は、気温19度/路面温度30度とQ1に比べて、やや落ち着いたコンディション。スタネックはタイミングを少しずらし、ユーズドタイヤでコースイン。1周のみでピットへ戻り、ニュータイヤへ交換すると、2周かけて入念にウォームアップを行いアタックへと入る。記録した1分27秒366で一時は10番手につけたものの、終盤の他チームのタイム更新によりポジションを落とし、最終的に12番グリッドを獲得した。

予選終了後、長谷川監督は「Q2ではクルマのバランスとセクター3でのパフォーマンスが不足していたと思います。そこさえクリアできれば、トップ10圏内も狙えたはずです」と悔しさを口にした。Q1のタイムを上回るパフォーマンスは見せたものの、セクター3での伸び悩みが響き、大幅な更新には至らず、順位を上げることができなかった。それでも明確な改善点を掴んだチームは、決勝での巻き返しとポイント獲得に向けて照準を合わせた。

## ■RACE Canceled 4月26日(日) 天候：雨/路面：ウェット

決勝日のオートポリスは、予報通り朝から断続的に雨を降らせ、上空には霧も漂っていた。スーパーフォーミュラのスタート進行が進むにつれて雨脚は強まる一方。グリッド上でも念入りに作業が行われるなか、レース開始時刻が刻々と迫るが、スタート2分前にディレイがアナウンスされることに。その後、セーフティカー(SC)先導のもと、一度は決勝レースがスタートを切られたが、1周のみで赤旗が提示。レースは中断という形ではあったが、天候の回復が見込めないため、そのままレースは終了となってしまった。代替えレースについては議論中とのことで、今後の発表が待たれる状況だ。

今回は決勝レースが不成立とはなってしまったが、我々チームとして開幕戦に次いで、まずは目標としている予選Q1突破とQ2進出を達成。開幕2戦で積み重ねてきた走りや、得られた確かな感触は、確実に次戦以降へと繋げていきたい。約1カ月後に控える第4・5戦鈴鹿に向け、チーム一丸となって準備を進めていく。



## ■DRIVER / DIRECTOR COMMENT



### ROMAN STANEK

#### Driver

「初めてのオートポリスということもあり、フリー走行ではコースの習熟に重点を置いて走行しました。クルマの調子も自身のフィーリングも良く、少しずつ攻めた走りができたので、充実したセッションでした。新規チームでありながらも、もてぎ大会から継続して再び予選で Q2 進出を決めることができたのは、とても嬉しかったです。エンジニアとメカニックの力強いサポートがあってこそその結果だと思っています。トップ 10 を狙えるだけのパフォーマンスはありましたが、トップとの差はまだあるので、今後に向けてさらにパフォーマンスを向上させていきたいです。決勝は悪天候でレースがキャンセルになりとても残念です。次戦の鈴鹿に向け、しっかりと準備を進めていくので、引き続き応援よろしく願います」



### KENICHI HASEGAWA

#### Director

「開幕戦は予選も決勝もともにマシンバランスも良かったので、前戦のベースをそのままにオートポリス仕様で少しアジャストしたクルマを持ち込みました。フリー走行では2度のスピンがあり、ニュータイヤを履いた状態でのデータを取ることができないまま予選に挑むこととなり、少し不安もありました。ですが、予選 Q1 では非常にライバルも多く大接戦の中で Q2 進出を決めてくれ、チームにとってもとても嬉しい瞬間でした。その一方で、クルマを煮詰めきれなかった部分もあり、今後に向けて改善が必要な点も見えた予選でもありました。決勝は残念ながら悪天候により、中止となってしまいましたが、次戦鈴鹿でも Q1 突破とポイント獲得を目指して、準備を進めて参ります。いつもあたたかく応援いただいているスポンサー様、関係者の皆様、今大会も本当にありがとうございました。引き続き、よろしくお願い申し上げます」

